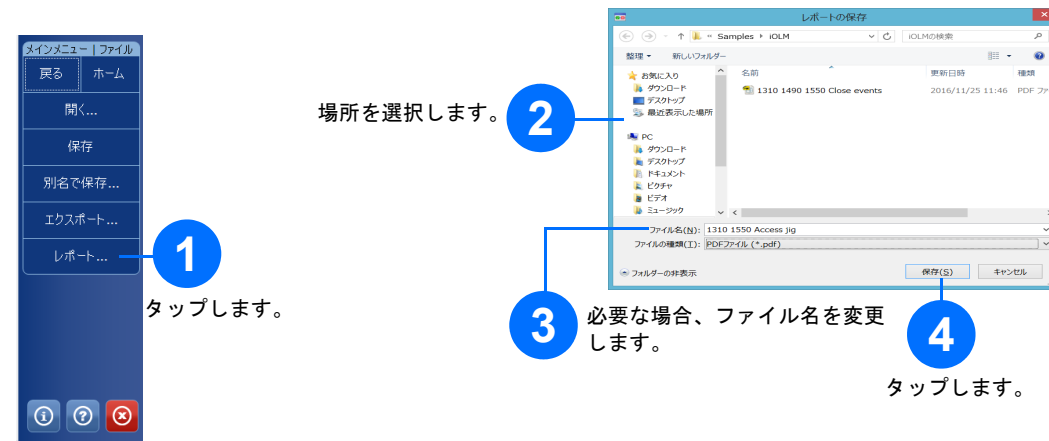


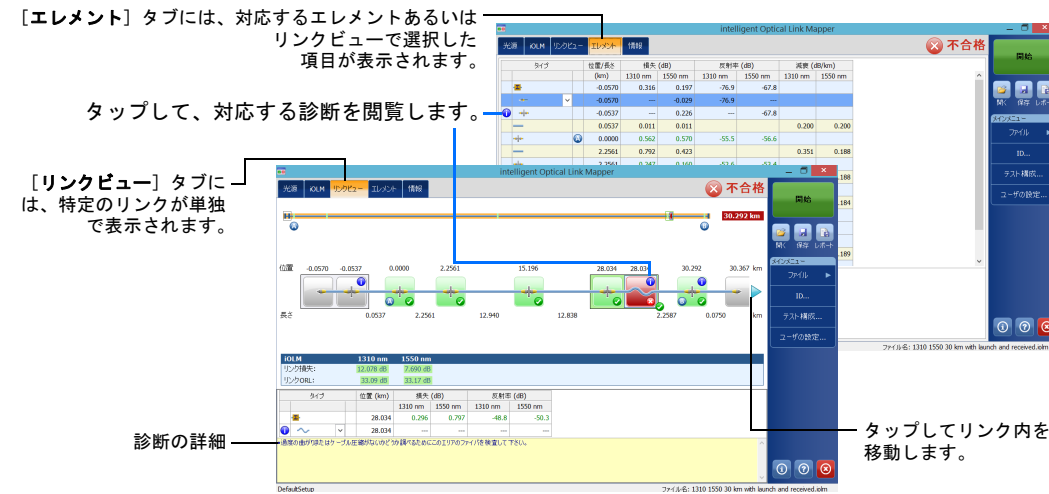
レポートの作成

測定結果を記載した PDF レポートを作成することができます。



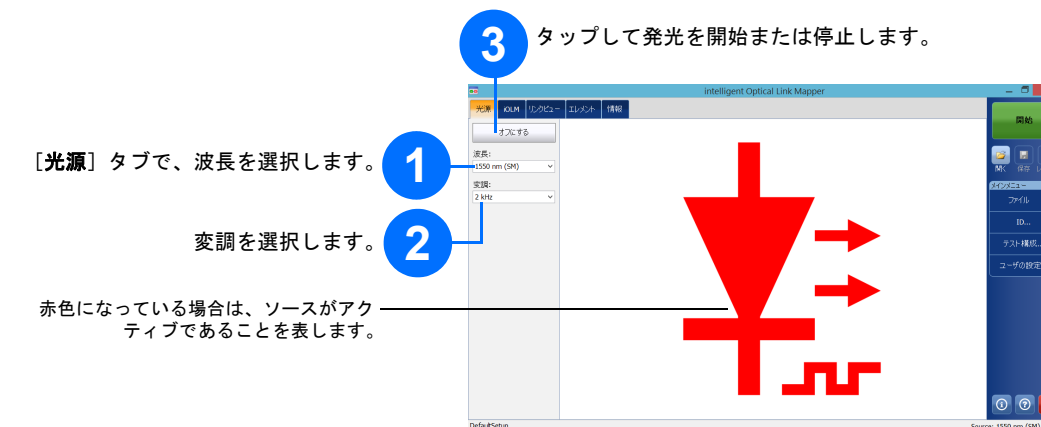
結果の表示と診断の確認

測定を実行した後に、別のタブで結果を閲覧することができます。本アプリケーションで問題あるいは不明な測定状況などが検知された場合、診断が実行され、各リンクエレメントの問題についての詳細情報が提示されます。



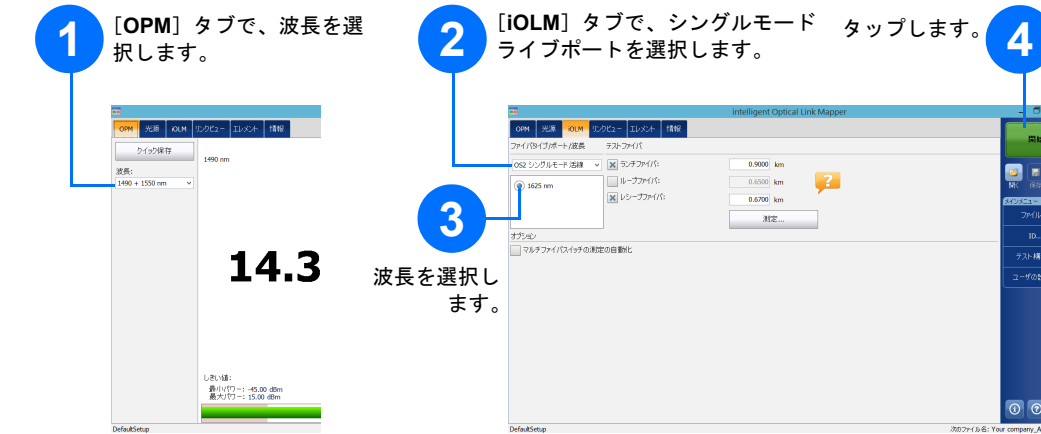
お使いのモジュールを光源にする

現在の OTDR レーザーを光源としてファイバ他端で電力計測定することができます。



インライン電力計の使用

インライン電力計はシングルモードライブポートからリンクの電力を測定します。同ポートは、iOLM 測定にも使用します。複数の波長で同時に電力計測定ができるように、2 チャンネルを設置することもできます。



© 2017 EXFO Inc. 無断複写・転載を禁じます。
カナダで印刷 (2017-01)
P/N: 1070824 バージョン: 1.0.0.1



クイックリファレンスガイド

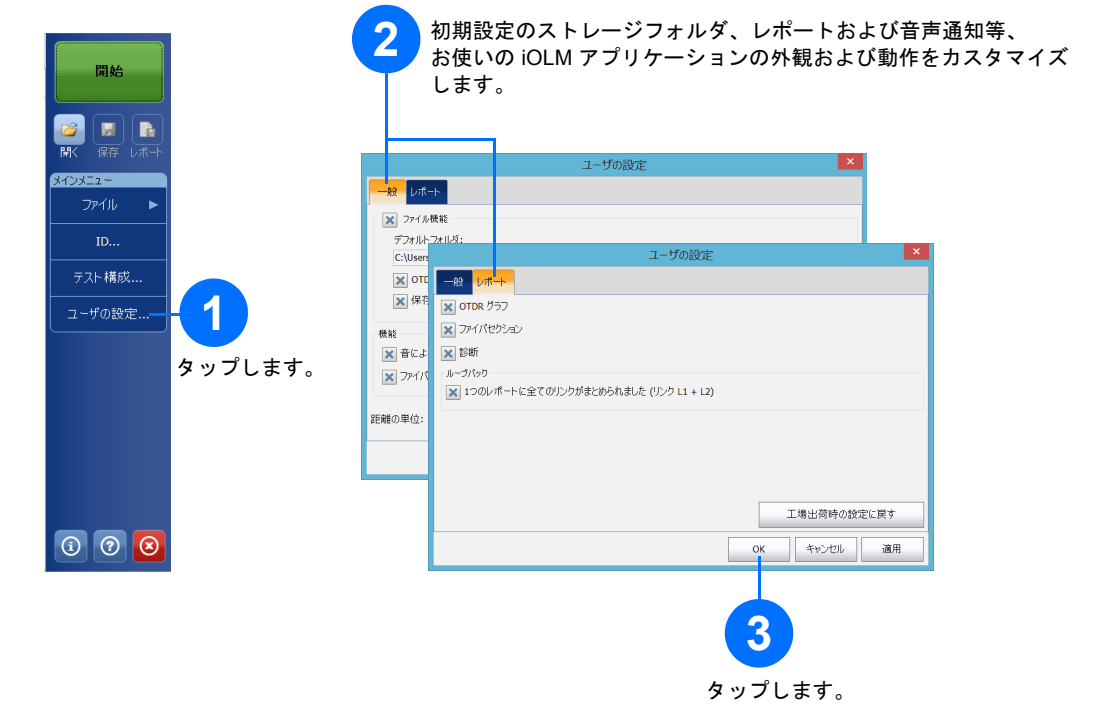
iOLM
intelligent Optical Link Mapper

iOLM は、アクセス / FTTx ネットワーク特性用に最適化されたアプリケーションです。この OTDR ベースのアプリケーションは、マルチパルス測定および高度アルゴリズムを使用して、リンクに関するすべてのエレメントの詳細情報を提供します。

iOLM モジュールには、オプションとして、インライン電力計を設置することができます。オプションとして、2つの波長を試験に使用する場合、1回の測定で2つの波長に対する出力水準を測定することができます。

注記: 購入したモデルやオプションによっては、使用できない機能があります。

ユーザー設定



詳細は、
ユーザーガイドを参照してください。



測定値の特定

使用中のテストで命名計画を実行する場合、自動命名機能が役立ちます。

名前に含まれる項目。

名前の中の選択した識別子の表示順を修正します。

識別子間のセパレータを選択します。

選択することにより、このプレビューは自動更新されます。

インクリメント値を設定する。

識別子用の自動インクリメントを有効にします。

必要な場合、開始、停止およびステップ値を設定します。

現在の測定：標準ループバックあるは双方向ループバック測定ファイルを使用している場合は、[値]列が2列、つまり、各ファイバに1列ずつ、割り当てられています。

次の測定：[値]列が1列のみ表示されます。

テスト構成の使用

機器の購入時、初期設定は事前定義済みの構成になっています。個別ニーズに合わせたテスト構成を各自作成することもできます。

1 1 2 3

次の測定に使用する構成を選択します。

テスト構成が読取専用モードになっていることを表します。

現在の測定用に使用している構成。

選択した構成をコピーして新しい構成を作成します。

別の機器でも使用できるように、構成を保存します。

外部機器からリストに構成を追加します。

4

必要の場合、現在の構成の設定を修正します。

テストパラメータの構成および測定の開始

iOLM は、選択したポートおよび波長について測定を実行し、次の測定に向け、数値が保存されます。標準モードあるいはループバックモード等、ニーズに合わせて、各種の試験タイプが使用できます。

1 2 3 4 5

[iOLM] タブで、ポートおよびファイバのタイプを選択します。

波長を選択します。

ファイバ長のランチと受信を自動較正するには、[測定]をタップします。または、値を手動で指定するには、試験ニーズに合わせてチェックボックスを選択し、値を入力します。

注記：[ループファイバ] チェックボックスから、ループバックモードで試験することができます。

現在使用中のオプションを選択します (マルチファイバスイッチまたは双方向ループバック)。

マルチファイバ光学式スイッチを使用するには、これを選択します。

双方向ループバック測定を実行するには、これを選択します。

どの方向を先に試験するかによって、[1] または [2] を選択します。

[開始] または [OptiModeで開始] をタップします。